

平成24年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校5年）

【国語】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語	話の中心、内容の聞き取りの正答率は高く、話題に沿った意見を記述する問題も、正答率が高かった。	話の要点の聞き取り方や内容を聞き取りやすい話し方など継続して指導をする。その際、自分の意見を書く指導を多くする。
説明的文章	文章の内容を的確に押さえることや段落のまとまりを考えることが苦手なようで、正答率が低かった。	各段落の要点を自分の力で読み取っていくなど説明文の読み取り方をもう一度確かめながら学習を進め、文章全体の構成や筆者の主張を理解できるよう指導をしていく。
文学的文章	文脈に即した内容の理解や登場人物の心情の正答率が高かった。	登場人物を中心に物語を読み取る練習や、場面を押さえ、文脈に即して心情の移り変わりを読み取る指導を継続していく。
漢字	全体的に市全体の正答率よりも高いが、漢字の書きの正答率は低い傾向にある。	漢字の得意な児童と苦手な児童の差が大きくなり、個別の意識付けが必要である。日常の表現指導（ノート、作文、日記、手紙）においても漢字を使う指導の徹底を図る。
言語事項	言葉の意味、修飾語の正答率は高かったが、接続語の補充や熟語の構成の正答率は低かった。	基礎的な力となる読書量を増やしていくとともに、文の構造に関する理解を深める指導を継続していきたい。
作文	今回は学校行事のことについて書くという課題であった。指定された長さ、段落構成など形式を理解しており、正答率も高かった。	今後も学習の中で、具体的な場面に即してテーマを決め、また長さや段落なども指定し、その中で書く経験を積み重ねたい。

【社会】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然	日本の気候について資料から考える問題の正答率が低かった。	何が分かれば問題を答えられて、そのために使う資料は何かについてポイントを絞って理解できるよう指導していく。
農業や水産業	概ねできているが、日本の漁業の種類と生産量の変化や栽培漁業についての理解が不十分であった。	グラフを意味づけながら指導していく必要がある。なぜ変化したのか、その後どうなったのかを考えさせたい。
工業生産	日本の輸入品の変化について、その背景を複数の資料から判断する正答率が低かった。	資料一つ一つに目をやり、何が読み取れるか、何が分かるかを丁寧にかつ繰り返し指導していくことが必要である。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	帯分数－真分数、小数第二位×小数第一位、小数の余りを出す計算で正答率が低かった。少し複雑になるとできない傾向にある。	さらに反復的な学習が進められるようにし、基礎的な力が定着するように指導する。
量と測定	図形の体積を求める問題と単位量あたりの大きさを求める問題の正答率が低かった。	体積については、面積と混同し計算ミスをした児童もいたので、繰り返し復習をする。単位量あたりの大きさでは、何を求めるか数直線を使って考えられるよう既習事項の復習をする。
図形	図形の性質、内角の和、合同についてよく理解しているが、対角線については不十分だった。	四角形の対角線について復習し、同じ長さになる図形やそうでない図形を確認させる。
数量関係	ともなって変わる二つの数量の関係を式に表すことが苦手なようで、正答率が低い。	比例の表と式を対応させながら、考えられるよう、繰り返し指導をする。

【理科】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・市の平均正答率を 1.5 ポイント上回った。「ものあたたまり方」では、決して本校が高いわけではないが「水と金属のあたたまり方」について市の正答率が 16.3 ポイント上回った。しかし「空気は温度の差によって昇降することを理解し、部屋を効率よくあたためたり冷やしたりする方法」についての問いについては、実際に実験することなくまとめた学習だったため正答率は低かった。	・この「物質・エネルギー」は4年生で学習した内容で、学習してから1年の時間の経過とともに忘れられてしまったと考えられる。算数の四則計算ように日々活用しているものは忘れないのが世の常、関連学習の際は振り返り確認できるよう指導の場を設けたい。「水のゆくえ」の学習は学年末に位置づけられ、時間をかけ正確な実験ができなかったにもかかわらず、結果は〇〇なんだと簡単にまとめてしまったことが十分な理解につながっていないと考えられるため、補習したい。
生命・地球	・「雲と天気の変化」の知識理解の問題において市の平均正答率を下回ったが、「植物の発芽と成長」の思考・表現をはじめ「植物の花のつくりと受粉」「流れる水のはたらき」は、どの小問題も市の正答率を上回り、生命・地球の領域全体としては、市の正答率を 4.3 ポイント上回った。	・「雲と天気の変化」の学習では、雲の観察を通して課題を解決するなど、日々気象条件が変化したり、見る児童によって個人差がある雲の様子から判断したりする学習で、どのようにとったらよいか判断しにくいところが正しい理解や思考につながらなかったと考えられる。学習のまとめでは、いくつかの類似した天気図などからも推測できるよう時間をかけ指導することで、知識そして思考を確実なものとしたい。